研修名 物・自然を使った遊び 「自然環境での保育実践方法」
令和元年11月5日(金) 13:30~16:00

グループワーク ハートピア 第5会議室
講師 環境レイカーズ 代表 島川 武治 氏

1 講演要旨

1) 自然の中で感じよう!

①目を使おう!

- ・緑は何色あるか?→10色はある。 ・紅葉の完成形は何枚に分かれているか?→7枚
- ・落ち葉と上の葉と同じ物を探そう。→折って擦るとレモンのような香りがするか確かめる
→楠木(種は風に飛ばされるようにクルクル回る形になっている。)

②松の葉で相撲をしよう!

- ・連続何回勝てるか?色んな人と試合する。→7回が最高記録。緑で太い物を選ぶなどの工夫あり。

③聴いてみよう!

- ・牛乳パックでドングリを入れて、何個入っているか当てよう。
- ・鳥が何種類鳴いているか聞こう。

④ルーペで見よう! ※太陽を見ると危険!

- ・2人組で見る(頭皮→目) ・2人組で素敵な物探し→発表(例:蟬の抜け殻、葉)

⑤葉でジャンケンしよう!

- ・枝(チョキ)、葉(パー)、石(グー)→勝負より、あいこ勝ちの方が分かりやすく盛り上がる。

⑥袋の中身を当てよう!

- ・2回触るようにした。2回目に触る時に気を付けて触り、具体的になる。

⑦桜の葉っぱのグラデーションを並べよう!

- ・グループで6枚×6人で円に並べる。緑~赤~茶

☆目的地に行くより道中を楽しむ。グループでの遊びの中で折り合いがつけられるようにする。

2) ハートピア京都で学ぼう!

①ペン回しをやってみよう。

・前で見本をみて直ぐ出来る子は1割→方向を変えて見せる。ゆっくり見せると出来る子が増える。
→教えてもらおうと全員できる。

☆子ども同士で教え合う環境をうまく作る先生になるべき。

②現代っ子は自然体験ができない…

1. 体験=やりっぱなしは発展が無く、学びが浅い。 2. 環境の変化 3. 寄り添う大人(保護者、保育者、近所の人)の減少→自然へのイメージ低下 3K「汚い・怖い・危険」 4. 個別遊びの発達(スマホ、ゲーム→コミュニケーション能力の低下) 5. 生命の軽視(カブトムシの足をゼロハンテープでくっつけるなど)

☆「生」と「死」とは?と。自然の中で考える。

③「体験」＝生きる力

「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではない。：沈黙の春より

「感じる」って？

『見つめるワーク』（子どもと視線を合わせることの大切さ・子どもが見る自然）『お探しワーク』

（見つける心・感じる心）『感じるワーク』（触覚を言語化しよう）

2人組で、後ろを向いている間に1か所変化させて見つける。

『保育に役立つ体験学習法』 体験（DO）→指摘（LOOK）

↑ ↓

仮説化（GROW） ←分析（THINK）

④危険と安全

・何が危険で何が安全か個々によって違う。それを把握する。保育者は危険な動植物を把握して危険回避をする。応急処置を知る。子どもたちを安心させる。

⑤グループワーク

『各園の自然に関わる保育をする上での課題と解決法』について。

1班…園庭に自然がない。→家庭菜園、公園を生かす。

2班…野菜作りから食育を膨らませたい。→落ち葉やミミズを入れて土を作る。

3班…虫を嫌がる子がいる。→ルーペで虫の目体験をする。友だちが触っているところを見せる。

体質で蚊に刺されてはいけない子への対応は？→季節、子の成長を待つ。

4班…収穫を体験できない。→家庭から持ち寄ってもらう。（例：サツマイモつる付き）

保育室、園庭、園外でどれだけ自然に触れ合えるのか？

2 感想

京都御苑での研修では自然物を使った遊びを多く教えて頂き、楽しく学ぶことができました。特に印象的だったのは、ルーペで様々な物を見たことです。葉っぱの裏に毛があったり、虫の顔をよく見たりして、自然が生き残るための工夫をしていることが分かりました。また、五感を働かすことで鳥の声を聞き分けたりできるので、普段身近にある物でも感性を豊かにすることができるので保育に生かしたいと思いました。

午後からの講演では、グループワークで他の園の先生方と話をする機会があり、それぞれの園の環境が違いますが、与えられた環境を生かしたり、工夫したりして子どもたちが楽しめるようにされていることが分かりました。私も今ある環境を生かし、子どもたちと様々な体験をしたいと思いました。

また、自然を使った遊びを教えて頂く中でも、子どもたちが自然の不思議さに「何で？」と考えたり、体験を通して生きる力を育んだりできることを改めて学びました。「友だちと感動を共有し、分からないことを教え合える」クラス作りを更に充実したものにしていくためにも多くのことを学ぶことができました。園に戻って、意識して子どもたちと過ごすようにしたいと思います。